

(別添)

長崎県五島中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【長崎県五島中央病院の基本情報】

医療機関名：長崎県五島中央病院

開設主体：長崎県病院企業団

所在地：長崎県五島市吉久木町205番地

許可病床数：304床

（病床の種別） 一般 230床、精神 60床、結核 10床、感染症 4床

（病床機能別） 急性期 180床、回復期 50床

稼働病床数：304床

（病床の種別） 一般 230床、精神 60床、結核 10床、感染症 4床

（病床機能別） 急性期 180床、回復期 50床

診療科目：内科／精神科／神経内科／消化器内科／循環器内科／小児科／外科／整形外科／
脳神経外科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科
／放射線科

職員数：334人（H29.3.31現在）

- ・ 医師 32人
- ・ 看護職員 213人
- ・ 専門職 64人
- ・ 事務職員 25人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(医療機能の分化・連携体制)

- 「長崎県五島中央病院」が急性期の医療を担っており、周産期医療、精神科医療、救急医療を提供している。島内には他に3つの病院があり、今後の連携体制のあり方について検討する必要がある。

- 高度急性期をはじめ、特に長崎区域への患者の流出が多くみられる。

- 出生数の減少とともに産婦人科医が少なくなっており、切迫早産などについては、ドクターヘリで搬送を行わざるを得なくなっている。

(在宅医療・介護)

- 要介護認定率は国や県の平均を上回っており、入所待機者数が多くなっている。医療費は比較的少なく、施設等介護保険サービスへの依存度合いが高い地域である。

- 島内中心部への人口の一極集中が見られ、高齢者夫婦のみ世帯、一人暮らし世帯が急増している。在宅医療を提供する訪問看護ステーションは4箇所あるが、訪問看護師の数は十分とはいえない。

(医療・介護人材の確保)

- 医師や看護師等については慢性的な人材不足が続いており、医療機関等が島の中心部に集中しているため、周辺部や二次離島で医療の安定的確保が特に困難となっている。

- 在宅医療に取り組んでいる医師が少なく、関係多職種との連携体制の構築が課題となっている。

② 構想区域の課題

- 回復期を担う病床が少ないため、急性期医療終了後の受け入れ先が回復期ではなく、そのまま在宅（介護保険サービス）になっているケースが多く、適切な回復期機能を提供できる体制を構築する必要がある。

- 認知症施策への本格的な取組みが急務となっており、認知症の専門医や相談員を配置している「認知症疾患医療センター」との連携体制を整備するとともに、早期予防のため、医療機関が中心となりチーム医療の取組みを積極的に行う必要がある。

③ 自施設の現状

○五島区域の中核病院として5疾病・5事業のうち、がん医療、急性心筋梗塞医療、精神科医療、離島・へき地医療、一般救急医療、周産期医療、災害医療を提供、また、脳卒中医療、糖尿病医療、小児救急医療も一部提供しており、リハビリテーション医療、結核・感染症対策も行っている。
 なお、在宅医療については、他の医療機関が担っており、当院では急性増悪時等の入院医療など後方支援を行っている。

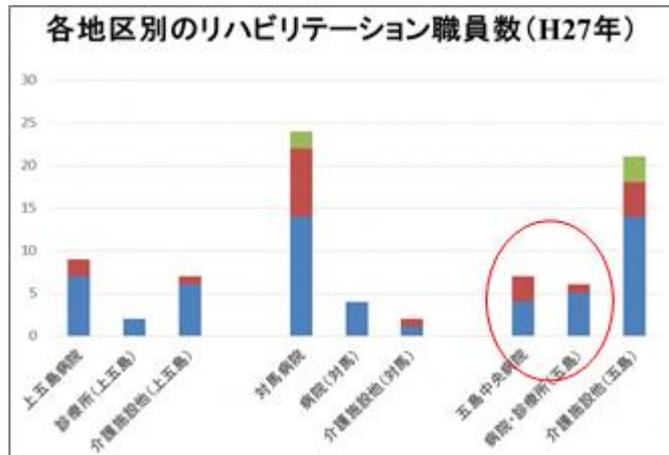
○一般病床の入院基本料は、10対1入院基本料を届出ている。

また、病床利用率、平均在院日数等の推移は右表のとおりであり、急性期を中心としている一般病床の利用率が低く、平成25年度以降は全病床で70%を下回っている。

○入院、外来患者数(1日あたり)、平均在院日数

| (人/日、%) | | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 五島中央 | 入院 | 216.7 | 217.1 | 201.8 | 208.8 | 205.0 | 194.8 |
| | 利用率 | 71.3 | 71.4 | 66.4 | 68.7 | 67.4 | 64.1 |
| | うち一般 | 179.8 | 181.8 | 166.0 | 168.9 | 168.3 | 163.8 |
| | 利用率 | 78.2 | 79.0 | 72.2 | 73.4 | 73.2 | 71.2 |
| | 平均在院日数 | 17.1 | 17.1 | 16.9 | 16.7 | 17.6 | 17.1 |
| | うち精神 | 36.5 | 35.0 | 35.5 | 39.4 | 36.7 | 30.1 |
| | 利用率 | 60.8 | 58.3 | 59.2 | 65.7 | 61.2 | 50.2 |
| | 外来 | 595.2 | 575.4 | 585.4 | 597.8 | 608.6 | 596.3 |
| | うち一般 | 523.5 | 503.1 | 511.6 | 526.7 | 539.4 | 528.3 |
| | うち精神 | 71.7 | 72.2 | 73.8 | 71.1 | 69.2 | 68.0 |

○五島区域からの回復期の患者流出が大きいのが、当区域でリハビリテーション職員の最も多い当院においても他の離島基幹病院と比較してリハビリテーション職員数が少なく、当区域では医療機関からの在宅復帰に向けたリハビリテーションの機能が十分提供できていないものと考えられる。



④ 自施設の課題

- 急性期機能を主体として提供するとともに、地域で不足しているリハビリテーションを含む回復期機能の提供することにより、必要な医療を島内で受けることの出来る体制を整備していく必要がある。
- 高度急性期から回復期機能までの医療提供も踏まえ、他の医療機関や介護施設との連携を強化する必要がある。
- 「認知症疾患医療センター」が五島区域にはないため、その設置に取り組むことを求められている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 区域内の他の医療機関では対応が難しい、がん医療、急性心筋梗塞医療、精神科医療、離島・へき地医療、一般救急医療、周産期医療、災害医療等の政策医療を引き続き担っていく。
- 五島区域の中核病院として、地域で可能な限り医療を提供する体制を維持していくとともに、地域内で提供困難な高度医療については、本土の高度医療機関との連携により医療提供体制を確保する。
- 五島区域において不足している回復期機能の一翼を担う。
- 「認知症疾患医療センター」の指定に向けた取り組みを進める。

② 今後持つべき病床機能

- 五島区域で唯一の総合病院であり、時間外の救急患者の殆どを受け入れていることから、現在の急性期機能を維持していく。
- 五島区域において不足している回復期の機能を提供するため、自院のリハビリテーション提供機能を強化し、急性期機能を損なわない範囲で急性期病棟の一部の回復期病棟への転換を図る。

③ その他見直すべき点

- 急性期病棟から回復期病棟への転換を通じて病床規模の適正化を図り、病床利用率を向上する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

| | 現在 (平成28年度病床機能報告) | | 将来 (2025年度) |
|-------|----------------------|---|----------------|
| 高度急性期 | | → | |
| 急性期 | 230 | | 180 |
| 回復期 | | | 50 |
| 慢性期 | | | |
| (合計) | 230 | | 230 |

<年次スケジュール>

| | 取組内容 | 到達目標 | (参考) 関連施策等 |
|-------------|--|--|--|
| 2017年度 | <ul style="list-style-type: none"> ○急性期から回復期へ50床を機能転換（五島区域地域医療構想調整会議において、2016年度に合意済み） ○「認知症疾患医療センター」の設置を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ○地域で不足している、PT、OTを増員。リハビリテーションの提供量を増加する。 ○2017年度中に、地域包括ケア病棟を稼働させる。 | <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> 2年間程度で 集中的な検討を促進 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 10px; text-align: center;"> 第7次 医療計画 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center;"> 第8期 介護保険 事業計画 </div> </div> |
| 2018年度 | | <ul style="list-style-type: none"> ○「認知症疾患医療センター」の指定を受ける。 | |
| 2019～2020年度 | | | |
| 2021～2023年度 | | | |

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針> ※見直す予定はない。

| | 現在 (本プラン策定時点) | | 将来 (2025年度) |
|-------|------------------|---|----------------|
| 維持 | | → | |
| 新設 | | → | |
| 廃止 | | → | |
| 変更・統合 | | → | |

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床利用率（一般）：H28年度実績 71.2%
⇒ 目標 78.4%（回復期病床への転換により増）
- ・ 手術室稼働率：目標設定なし
- ・ 紹介率：H28年度実績 27.9% ⇒ 目標 27.9%（現状維持）
- ・ 逆紹介率 目標設定なし

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：H28年度実績 64.0% ⇒ 目標（中期経営計画） 59.2%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：
H28年度実績 0.7% ⇒ 目標（中期経営計画） 0.6%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）

- 長崎県病院企業団においては、「郷診郷創」をキーワードとして、離島から本土へなど他地域に流出している患者の地域への呼び戻しを行う取り組みを平成29年度から開始している。長崎県地域医療構想における将来必要病床数は、2013年の患者流出量を基礎として推計されており、見直しが必要になってくるものと考えている。
- 地域医療構想における、五島区域の将来必要病床数は、高度急性期と急性期を併せて133床であり、現時点の当院の急性期病床180床を下回っているが、当区域の急性期医療と5疾病・5事業の殆どを提供している当院の急性期病床の縮小には、地域から不安の声も聞かれる。地域内で十分な議論が必要と考える。